

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(令和元年9月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 麻しん（はしか）の予防にはワクチン接種が有効です

5月29日に広島市内の医療機関から広島市に、海外からの帰国者が麻しんに感染している旨の届出があり、その後、当該患者が勤務する事業所等複数の事業所の社員及びその家族等に感染が広がり、県内で計18名の患者が発生しました（本件は8月11日に終息）。

麻しんは、空気感染や接触感染でうつる非常に感染力の強い感染症で、手洗い、マスクのみでは予防できません。有効な予防方法はワクチン接種です。

「MRワクチン（麻しん風しん混合ワクチン）」の定期接種の対象年齢にある方（第1期「1歳」及び第2期「小学校入学前1年間」）は、確実に接種するようお願いします。

麻しん 広島県 検索



写真2 麻しんの写真
(撮影：馬場宏一氏)

(出典) 『学校における麻疹対策ガイドライン』
平成20年3月国立感染症研究所作成

【潜伏期間】通常 10～12 日（7 日～21 日）

【臨床症状】特徴的な発疹，発熱，カタル症状（咳，鼻汁，結膜充血）

【感染経路】空気感染，飛沫感染，接触感染 ※基本再生産数 (R_0) は 12-18（インフルエンザ 2-3）

【治療・予防】特異的治療法はない。予防にはワクチンが有効

【感染力のある期間】発病 1 日前～解熱後 3 日

【学校保健安全法】解熱した後 3 日を経過するまで出席停止

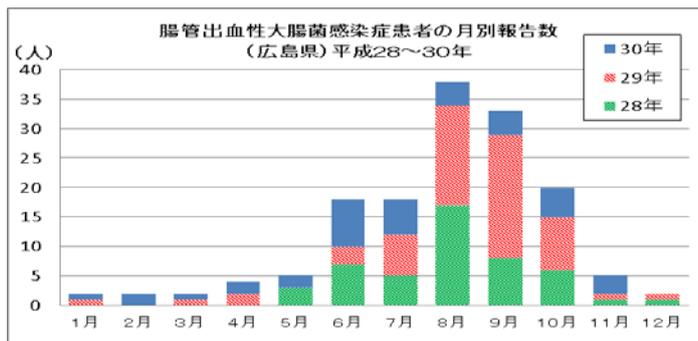
【合併症等】・ 2 大死因は，肺炎と脳炎。

- ・ 患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎を発症し，死亡する割合も，先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われる。
- ・ 麻しんに罹患後 7-10 年を経て亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) を発症することがあり，発症者の大半は知的障害，運動機能障害が進行した後数年以内に死亡。

(2) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157 をはじめとする腸管出血性大腸菌による感染症は，例年 6 月～10 月にかけて多くの患者数が報告されています。

県内では，今年 8 月に 13 名の患者が報告されており，まだまだ，発生が多い時期が続くことから，引き続き注意が必要です。



病原体	腸管出血性大腸菌 O157, O26, O111, O128 など (ベロ毒素をつくるもの)
症状	・ 症状がないものから，腹痛や下痢を伴うもの，血便を伴うもの，さらに，重症化して溶血性尿毒症症候群 (HUS) を発症する場合など，症状は様々です。 ・ 多くの場合，3～8 日の潜伏期間の後に，頻回の水様性下痢で発病し，激しい腹痛，血便を伴います。 ・ 子どもや高齢者は重症化しやすいので，特に注意が必要です。
感染経路	・ 飲食物を介する経口感染がほとんどで，菌に汚染された飲食物を摂取することで感染します。 ・ 感染力が非常に強いので，患者や保菌者の便からの二次感染もしばしば起こります。
予防方法	・ 手洗いの励行が基本となります。特に食事前やトイレ後の手洗いは徹底してください。 ・ 食品は，中心温度を 75℃以上で 1 分以上，十分加熱調理してください。 ・ 焼肉などの時は，取り箸やトングは，生肉用と食事は使い分けてください。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和元年8月分(令和元年8月5日～令和元年9月1日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	63	0.15	0.06	↑	10	ヘルパンギーナ	233	0.88	1.11	↓
2	RSウイルス感染症	422	1.59	1.03	↑	11	流行性耳下腺炎	25	0.09	0.54	↘
3	咽頭結膜熱	137	0.52	0.41	↘	12	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	214	0.80	1.16	↘	13	流行性角結膜炎	52	0.73	1.03	→
5	感染性胃腸炎	870	3.27	3.71	↘	14	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
6	水痘	47	0.18	0.37	→	15	無菌性髄膜炎	2	0.02	0.04	
7	手足口病	395	1.48	1.66	↓	16	マイコプラズマ肺炎	3	0.04	0.22	
8	伝染性紅斑	81	0.30	0.13	↘	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	92	0.35	0.45	→	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和元年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	67	2.91	2.25	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	65	3.10	3.46	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	25	1.09	0.83	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3	0.14	0.31	
21	尖圭コンジローマ	15	0.65	0.68	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.03	
22	淋菌感染症	15	0.65	0.95	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)
 ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)	急増減	増減	微増減	横ばい	1:2以上の増減	1:1.5~2の増減	1:1.1~1.5の増減	ほとんど増減なし
○急増疾患 インフルエンザ (0.03 → 0.15) RSウイルス感染症 (0.30 → 1.59)	↑	↗	↘	→				
○急減疾患 手足口病 (8.13 → 1.48) ヘルパンギーナ (2.38 → 0.88)	↓	↘	↗	→				

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象7疾患)について,県内177の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1~11	12, 13	19~22	14~18, 23~25	
定点数	43	71	19	23	21	177

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	38	結核(38)〔西部保健所(5),西部東保健所(5),東部保健所(6),北部保健所(1),広島市保健所(13),呉市保健所(5),福山市保健所(3)〕
三類	13	腸管出血性大腸菌感染症(13)〔西部保健所(1),西部東保健所(1),北部保健所(1),広島市保健所(1),呉市保健所(2),福山市保健所(7)〕
四類	25	A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕,E型肝炎(1)〔呉市保健所(1)〕, デング熱(1)〔広島市保健所(1)〕, レジオネラ症(8)〔西部保健所(1),西部東保健所(2),東部保健所(1),広島市保健所(1),呉市保健所(1),福山市保健所(2)〕, 日本紅斑熱(14)〔西部保健所(2),東部保健所(7),広島市保健所(1),呉市保健所(1),福山市保健所(3)〕
五類	72	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(E型,A型除く)(1)〔西部保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(6)〔西部保健所(2),広島市保健所(2),呉市保健所(1),福山市保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所(1)〕, ジアルジア症(1)〔福山市保健所(1)〕,急性脳炎(1)〔東部保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(4)〔西部保健所(1),呉市保健所(2),福山市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(2)〔東部保健所(1),福山市保健所(1)〕, 梅毒(21)〔西部保健所(1),東部保健所(1),広島市保健所(8),呉市保健所(3),福山市保健所(8)〕, 百日咳(34)〔西部保健所(2),西部東保健所(4),東部保健所(1),北部保健所(2),広島市保健所(22),福山市保健所(3)〕